

住環境財団
2021年度助成金
事業報告書

事業名

「Architalkウェビナーシリーズ」

公益財団法人 国際文化会館

1. 事業名

Architalkウェビナーシリーズ

2. 実施団体名、責任者名

公益財団法人国際文化会館

理事長 近藤 正晃ジェームス

事業担当者 企画部プログラム・コーディネーション・マネージャー 池田純子

3. 事業の目的

新型コロナウイルスにより、人と人との物理的な距離のみならず精神的な距離が広がり、格差や分断が深くなることで様々な弊害や対立がより顕著になっている現在、建築・デザイン・都市計画は世界的な課題解決のために大きな役割と可能性がある。共催団体であるアジアン・カルチュラル・カウンシル (ACC) にかかわる建築家や専門家をスピーカーにむかえ、新たな社会を創造するための建築やデザインに何ができるのか光をあてる。また、様々な分断を目にしている今日の世界で、人と人を分けるものではなく、人と人、人と自然、過去と未来、そして命を「つなぐ」大きな可能性があるものとして建築とデザインを様々な視点からとらえ直していくことを目的とする。

4. 事業の概要

ニューヨークに本部を置くアジアン・カルチュラル・カウンシル (ACC) との共催にて、国際的に活躍する建築家やアーティスト、研究者を特別ゲストに迎えた全 6 回のトークセッション (各セッション詳細は後述) をウェビナー形式で配信した。建築の魅力のみならず、環境やテクノロジー、歴史、アート、コミュニティなど、さまざまな視点から建築の果たす役割や可能性について考えた。第一線で活躍する建築家や専門家をスピーカーに招くことにより、今後 20 年で建築・デザイン・都市を通してどのような未来を創造できるのか、特に次代を担う若者が考えるための場を提供。Youtube 動画にて日本語あるいは英語字幕を付与し配信した。

主催：国際文化会館

共催：アジアン・カルチュラル・カウンシル

協賛：清水建設、日建設計

助成：住環境財団、MRAハウス、東京倶楽部

5. 各回の実施概要

第一回「変わる建築家の社会的役割」

自然との調和やサステナビリティなどを重視した独創的な建築スタイルで世界に数々の衝撃を与えてきた隈研吾氏。重厚長大な建築美がもてはやされた時代に、なぜ隈氏はあえて「負ける建築」を目指したのか。そしてコロナ禍で世界が大きく変わる今日、建築のもつ意味はどのように変化していくのか。2025 年大阪・関西万博のプロデューサーも務める理事の宮田裕章氏が隈氏に建築家の役割を問い直します。

配信開始：2022年2月17日

スピーカー：隈研吾（建築家）

モデレーター：宮田裕章（慶応義塾大学教授／国際文化会館理事）

アーカイブ動画のアップロード

<https://www.youtube.com/watch?v=yEz3UdWeQQE&t=335s>

視聴回数：2756 再生、55 いいね

第二回「アート、建築、社会」

名和氏はさまざまな素材やテクノロジーを組み合わせさせた斬新な彫刻制作で知られる一方、近年は従来の彫刻の枠組みにとらわれず、建築や空間を含めた統合的なアート体験を創り出しています。アートと建築の両方の世界に足を踏み入れたきっかけは何だったのでしょうか。そして作品を通して何を表現し、社会にどのようなメッセージを発信しているのでしょうか。神勝寺のアートパビリオン「洗庭」やルーブル美術館のピラミッド内に設置された巨大彫刻「Throne」、犬島「家プロジェクト」のF邸など、話題作を映像で振り返りながら、社会におけるアートと建築の可能性を探っていきます。

配信開始日：2022年2月24日

スピーカー：名和 晃平（彫刻家）

モデレーター：宮田 裕章（国際文化会館理事）

アーカイブ動画のアップロード

<https://www.youtube.com/watch?v=fXuht3bXCrM&t=1816s>

視聴回数：1184 再生、24 いいね

第三回 「建築からみる東南アジアの近代」

モダニズム建築といえば、ル・コルビュジエやフランク・ロイド・ライト、ミース・ファン・デル・ローエなどが世界的に知られていますが、東南アジアにもクメール近代建築の祖ヴァン・モリヴァンをはじめ、多くの建築家による特徴的な作品が残されています。民主化や工業化など西洋社会における「近代化」とは異なる文脈の中で、アジアのモダニズム建築はどのように形作られていったのでしょうか。アジア・カルチュラル・カウンシル（ACC）との共催企画「Architalk x ACC ウェビナーシリーズ」の第3回セッションでは、アジアの建築史が専門のローレンス・チュア氏（米シラキュース大学准教授）と、プノンペンを拠点とする建築家・都市研究家のペン・セレイパンヤ氏のお二人をゲストに招き、近現代史を振り返りながら、東南アジアのモダニズム建築を読み解く視点を学びます。

配信開始日：2022年3月10日

スピーカー：ローレンス・チュア（シラキュース大学准教授）、ペン・セレイパンヤ（「Vann Molyvann Project」ディレクター）

モデレーター：メアリー・ケイ・ジュディ（建築保存修復士）

アーカイブ動画のアップロード

<https://www.youtube.com/watch?v=EcGNZw-VhY4>

視聴回数：455 再生、13 いいね

第四回「建築・デザインを通してコミュニティを創る」

空き店舗をイベントスペースにしたり、オフィスをアート空間に変えたり、ビルの屋上にスポーツ施設を作ったり…。建築やデザインの面から地域コミュニティを活性化させるさまざまな新しい試みが始まっています。アジア・カルチュラル・カウンシル (ACC) との共催企画「Architalk x ACC ウェビナーシリーズ」の第4回目では、バンコクと香港で躍進中の二人の若手クリエイターをスピーカーに招き、建築・デザインを通じたコミュニティづくりの事例や課題、ポストコロナに求められる公共空間のあり方などをテーマにお話を伺いました。バンコクと香港という二つの都市での取り組みから、日本のコミュニティづくりにも活かせるヒントを学びます。

配信開始日：2022年3月17日

スピーカー：サヴィニー・プラナシラピン (建築家/タイ)、サラ・ムイ (建築家/香港)

モデレーター：メアリー・ケイ・ジュディ (建築保存修復士)

アーカイブ動画のアップロード

<https://www.youtube.com/watch?v=P8Q032ksXG8&t=730s>

視聴回数：375 再生、7 いいね

第五回「建築・都市デザインにみる伝統とエコロジー」

オランダを拠点に人と環境にやさしい建築・デザインで注目を集める建築事務所「Oikosdesign (オイコスデザイン)」のジュサック・コー氏とアネモネ・ベック・コー氏のお二人をスピーカーに招き、持続可能性や自然との調和、生態系の保全といった観点から建築と都市デザインのあるべき姿を考えます。西洋と東洋における自然観の違いとは？ 環境対策とコスト削減を両立する方法は？ 土地の歴史や伝統をいかにして作品に昇華させるか？ ソウルの複合施設「D-CUBE CITY」や「韓国電子通信研究院 (ETRI)」などの夫妻の代表作を例に、作品が生まれるまでの舞台裏も明かします

開催日：2022年3月24日

スピーカー：ジュサック・コー (建築家/韓国)、アネモネ・ベック・コー (建築家/オランダ)

モデレーター：メアリー・ケイ・ジュディ (建築保存修復士)

アーカイブ動画のアップロード

<https://www.youtube.com/watch?v=YwV3ozI1QN4>

視聴回数：347 再生、7 いいね

第六回目「東南アジアの都市、環境、建築」

ベトナムで現在最も国際的に活躍している建築家であるヴォー・チョング・ギア氏を講師に高温多湿の東南アジアの都市における建築の未来とエネルギー消費を最小限におさえる建築設計、そして建築を使用する人間のメンタルヘルスを考えた空間についてお話しいただきました。

スピーカー：ヴォー・チョング・ギア (VINアーキテクト代表、建築家)

モデレーター：田村順子（明治大学准教授）

アーカイブ動画のアップロード：2023年3月28日アップロード予定

6. 事業の成果と今後の課題

前述の通り、6回にわたり、幅広いテーマから建築について考えるセッションを実施した。日本の著名な建築家やアーティストにご登壇いただくことで事業の認知度を高めることができ、これまであまり紹介する機会がなかった他アジア地域で活躍する建築家をスピーカーに迎えることで、アジア太平洋地域の建築界の現状と未来について多角的な視点から考える場を提供することができた。以前より国際文化会館の建築家による講演会の動画は視聴回数が多かったが、海外の視聴者から英語字幕の要望もあった。本事業では日本語あるいは英語の字幕をつけることにより、スピーカーの肉声をききながら内外の多くの方にご覧いただくことが可能となり、より多くの方への還元と事業の周知を行うことができた。

オンラインイベントが増加している中、全セッションの視聴回数が配信から概ね3日間で平均300回以上に、人気のあるセッションは配信開始1ヶ月で2500回以上の視聴回数に達し、視聴が増え続けていることは目標を上回る成果と考えている。ただし、多忙なスピーカーの日程調整およびライブ配信の運営に必要な要件把握に予定より時間を要し、シリーズの開始が計画より数カ月遅れ、予定していた6セッション目は2022年度に配信となったため、その点を今後は改善したい。

戦後75年以上を経た現在、コロナ・ウィルスという世界的な危機やウクライナへのロシア侵攻などの分断を前に、建築やデザインをはじめとする文化・芸術はどのような社会的な意味があるのか様々な観点から考え、共有することは、国際文化会館の基本理念である相互理解の促進こそが平和の文化の創造につながることを改めて確認し、本事業は微力ながらその実践と考えている。その観点からも国際文化会館では今後も建築やデザインによる交流や相互理解と連帯を促進するためのプログラムを開催していきたい。

以上